

## 基礎作業療法学演習（制作系）における陶芸の変遷と今後の課題

塩原直美<sup>1)</sup>

<sup>1)</sup> 茨城県立医療大学保健医療学部作業療法学科

### 要旨

茨城県立医療大学の作業療法養成課程では開学当時に用意された豊富な教育環境資源で基礎作業技術の学修として「陶芸」を開講してきた。しかしながら、作業療法の提供する作業の定義の拡大や、必要な学修内容の検討に伴い、基礎作業技術の学修を改編し、「陶芸」は実施形態を変え開講しているところである。今後の基礎作業技術としての「陶芸」について、これまでの開講内容の経緯、「陶芸」そのものの意味をふりかえり、今後の内容への期待と提案をした。地域資源の活用も考慮して内容を工夫していくことが望ましいと考えた。

**キーワード：**作業療法教育、基礎作業学、陶芸、教育文化、教育環境

### 1. はじめに

茨城県立医療大学は、1995年に、当時の茨城県民の医療資源の不足解消に対する期待に応え、看護師、理学療法士、作業療法士、診療放射線技師の養成とそれにふさわしい設備と環境が用意されて開学した。開学の経緯については茨城県立医療大学10周年記念誌に詳しい記録がある<sup>1)</sup>。開学当初の作業療法士の養成教育課程の科目には、「陶芸」をはじめ基礎作業といわれるいくつかの主要な作業活動の実習が含まれ、そのために必要な設備や材料が用意され、現在にいたっている。その教育環境は4つの実習室や16の小部屋を作業療法学科単独で使用できるという恵まれたもので全国の大学の養成課程の開設にさきがけて計画されたものであった<sup>2)</sup>。

しかし、現在それらの設備・機材は20年以上が

経過し、10年ほど前から老朽化故障などで更新や廃棄をしなければならないことも生じている。「陶芸」も名称と、目的・課題・評価法を変え、機材の補修や整備を行いながら存続させてきたが、陶工・金工室の2基の陶芸炉は今後修理・更新をせず、現在の陶芸材の消費をもって廃炉とする方向が作業療法学科会議で承認された。作業療法教育における基礎作業技術（陶芸）の学修と作業療法士教育のあり方について経過を振り返って整理してみたい。

### 2. 基礎作業学実習とカリキュラムについて

1960年に施行された理学療法士作業療法士法は第2条に作業療法の定義を含み、そのなかで、作業療法は「手工芸その他の工作を行わせること」とあ

表1 理学療法士作業療法士法に基づく作業療法の定義

理学療法士及び作業療法士法 (昭和40年6月29日法律第137号) 第2条2項 この法律で「作業療法」とは、身体又は精神に障害のある者に対し、主としてその応用的動作能力又は社会的 適応能力の回復を図るため、手芸、工作その他の作業を行なわせることをいう。
--

表2 作業療法学科カリキュラムのなかの基礎作業技術に関する科目

開学カリキュラム 1995-2001 (7期生まで)		
基礎作業学技術実習Ⅰ(陶芸)	45時間	1年次必修
基礎作業学技術実習Ⅱ(演劇)	45時間	1年次選択
基礎作業学技術実習Ⅲ(織物)	45時間	2年次必修
基礎作業学技術実習Ⅳ(ダンス)	45時間	2年次選択
基礎作業学技術実習Ⅴ(音楽と身体表現)	45時間	2年次必修
基礎作業学技術実習Ⅵ(木工・手工芸)	45時間	2年次必修
基礎作業学技術実習Ⅶ(絵画・デザイン)	45時間	3年次必修
H14カリキュラム 2002-2008 8期生から14期生まで		
作業学	講義	1年次必修
作業治療学演習(手工芸)	演習 30時間	1・2年次必修
作業治療学演習(余暇活動)	演習 30時間	1・2年次必修 含むダンス
作業治療学演習(集団活動)	演習 30時間	1・2年次必修
作業治療学演習(身体活動)	演習 30時間	1・2年次必修 含むADL
基礎作業治療学(織物)	演習 30時間	1・2年次選択
基礎作業治療学(陶芸)	演習 30時間	1・2年次選択 1単位
基礎作業治療学(木工)	演習 30時間	1・2年次選択
基礎作業治療学(演劇)	演習 30時間	1・2年次選択
レクリエーション演習	演習 30時間	3・4年次選択
音楽活動演習	演習 30時間	3・4年次選択
H21カリキュラム 2009-2012 15期生から18期生まで		
作業治療学演習	演習 60時間	1年次必修含むダンス・手工芸・集団
基礎作業治療学(陶芸)	演習 30時間	2年次選択 1単位
基礎作業治療学(織物)	演習 30時間	2年次選択
基礎作業治療学(木工)	演習 30時間	2年次選択
基礎作業治療学(演劇)	演習 30時間	1・2年次選択
レクリエーション演習	30時間	3・4年次選択
音楽活動演習	30時間	3・4年次選択
H25カリキュラム 2013～ 基礎作業療法学に位置づけ 19期生～		
作業科学演習	演習 30時間	1年次必修 含む織物
基礎作業療法学演習(集団交流系)	演習 30時間	1年次選択 含む余暇・レク・集団
基礎作業療法学演習(制作系)	演習 30時間	1年次選択 含む木工・陶芸 1単位
音楽活動演習	演習 30時間	3年次選択

る。(表1)開学当初は手工芸その他の工作を含む基礎作業の学修のために「基礎作業学実習」として6つの科目が用意され陶芸もその一つであった。(表2)

作業療法はデュイの生活の中の「手工」を教育のなかに持ち込む実践<sup>3)</sup>を背景として医療とリハビリテーションに「作業」を用いるということを実践しているものである。疾病や障害を持つ人が、以前の生活、もしくは多くの人の普通の生活や社会集団に復帰するために、社会の中で日常的に用いられている活動を用いて、障害に合わせたやり方の工夫を学習することや、健康的機能の維持、精神的な効用や自己存在の肯定のために行うことから発展している。それらを踏まえて、作業療法士の職能団体である日本作業療法士協会は学生教育用に自ら編纂した基礎作業学の教科書<sup>4)</sup>を1990年に出

版している。そのなかでは作業技術として「陶芸」を含む工芸作業や余暇活動が20種紹介されている。その基礎作業学の教科書はその後の作業学の研究進展もあり、1999年、2009年と改訂がなされている。特に2009年の改訂第3版<sup>5)</sup>では「陶芸」含む作業技術に関する内容は省かれて出版されている。2017年においては、日本作業療法士協会は協会が定義してきた「作業療法の定義」の見直しを行なっているところである。

そのような作業療法士全体の時流や2010年の作業療法の範囲の見直しの厚生労働省医政局からの通知(表3)もあり、茨城県立医療大学作業療法学科の教育内容は手芸工作などの生産的活動を目的とするだけではなく手段として「作業」を広くとらえ生活のリハビリテーションの期待に応える「作業」を使うための作

表3 平成22年の厚生労働省医政局通知による作業療法範囲の拡大

<p>医療スタッフの協同・連携によるチーム医療の推進について（平成22年4月30日医政発0430第1号）</p> <p>2 (2) リハビリテーション関係職種</p> <p>1) 喀痰等の吸引</p> <p>①理学療法士が体位喀痰法を時視する際、作業療法士が食事訓練を実施する際、言語聴覚士が嚥下訓練を実施する際など、喀痰吸引が必要となる場合がある。この喀痰吸引については、それぞれの訓練等を安全かつ適切に実施する上で当然必要となる行為を踏まえ理学療法士法作業療法士法…（中略）…同条2項の「作業療法」及び…（中略）…に含まれると開始、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士（以下理学療法士等という。）が実施できる行為として取り扱う。</p> <p>②理学療法士等の喀痰の吸引に当たっては、養成機関や医療機関等において必要な教育・研修等を受けた理学療法士等が実施するとともに…（中略）…。今後は、理学療法士等の養成機関や職能団体においても、教育内容の見直しや研修の実施等の取り組みを進めることが望まれる。</p> <p>2) 作業療法の範囲</p> <p>理学療法士及び作業療法士法第2条第2項の「作業療法」については同項の「手芸、工作」という文言から、「医療現場において手工芸を行わせること」といった認識が広がっている。以下に掲げる業務については、理学療法士及び作業療法士法第2条第1項の「作業療法」に含まれるものであることから、作業療法士を積極的に活用することが望まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>● 移動、食事、排泄、入浴等の日常生活活動に関するADL訓練</li> <li>● 家事、外出等のIADL訓練</li> <li>● 作業耐久性の向上、作業手順の習得、就労環境への適応等の職業関連活動の訓練</li> <li>● 福祉用具の使用等に関する訓練</li> <li>● 退院後の住環境への適応訓練</li> <li>● 発達障害や高次脳機能障害等に対するリハビリテーション</li> </ul>
--

業の理解と遂行技術の教育内容に含む科目群にいくつかの改編で変わっていった。2013年からは基礎作業技術の開講は他の科目内への置き換え・演習に換わられている。（表2 H25カリ）2015年には作業療法士養成施設の指定・監督権限が厚生労働大臣から都道府県知事に移譲されたことに伴い、理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドライン（表4）が新たに示され茨城県立医療大学も教育環境を整備しているところである。

### 3. 「陶芸」の開講内容の変遷

ここでは「陶芸」をはじめとする生産的活動の技術についての実習に関連する科目を中心にしてその開講の内容の変遷をたどることとする。

茨城県立医療大学の「陶芸」はアメリカのコロンバス芸術大学の主任教授として教鞭をとっていた梶谷胖氏が非常勤講師として科目責任者に迎えられ始まった。梶谷胖氏は八郷地区（現石岡市）に工房を設けて活動を行っていた作家である。開学に先んじて大学構内に設置されたパブリックアートのうち「メッセージ・ファイブ・A-8」というタイトルの巨大なモニュメントは梶谷胖氏の作品である。（図1）

表4 養成施設指導ガイドライン

<p>理学療法士作業療法士養成施設指導ガイドラインについて（平成27年3月31日医政発0331第28号 各都道府県知事あて厚生労働省医政局長通知）から抜粋</p> <p>6 教室及び実習室等に関する事項</p> <p>(2) 作業療法士養成施設 イ 作業療法実習室</p> <p>(ア) 木工室 (イ) 金工室 (ウ) 陶工室 (エ) 織物室 (オ) 手工芸室 (カ) 絵画室 (キ) レクリエーション室 (ク) 装具加工室 (ケ) 日常動作訓練室 和室4.5畳以上及び洋室を有すること 台所（車椅子用・立位用）・風呂・洗面所・便所及び押し入れの設備を有すること。</p>
--



図1 大学構内モニュメント メッセージファイブ





図2 梶谷講師による岩石から器ができるまでの工程と人間の成長を示した陶板

岩石が胎土となり練土、造形、乾燥、素焼き焼成、釉薬絵付け、本焼き焼成、仕上げの過程を 細胞、受精、胎児、誕生、乳幼児期、少年期、青年期、成人の成長と重ねている。

梶谷講師は、陶芸を含む造形活動から、制作を通してのオリジナルな感性と壮大な人生観を持っており、「陶芸」を通してそれらの教授がなされた。(表5)(図2)開学当初の「陶芸」は1年次生に開講され、釉薬の調合や窯焼成を含めて学生と教員が自主的な試みと制作を数多く行っている。学内教員は時間内外の制作や設備管理の補助員として参加している。(表6)

2002年からは開学当初の教育カリキュラムに対し大学を挙げての見直しがあり、その新しいカリキュラムの中で筆者が梶谷講師との連絡調整を担当した。作業療法士の養成課程の中の開講であるので作業療法士の視点を少しずつ加え、2013年までは梶谷講師に来学いただき技術指導を受けながら開講を続けた。この作業療法士の視点とは、例えば作陶スケジュール管理について意識させるように実習書を丁寧に作る、作陶を容易にするように工程見本を作り提示して行く、作品発表に演出評価を加えるようにするなどである。(表7)

2013年(平成25年)からのカリキュラムでは「陶芸」という種目活動名のついた科目が廃され、多様な作業の制作技術と作業分析を体験的に学ぶという目的の科目の中で「陶芸」の制作を扱うということになった。かつて学生一人当たり3キログラムの粘土を用意し5~20個の作品を創り出すという課題を見直して、陶芸作品の制作提出を必須とせず、評価対象課題も学生に選択できるように用意したが、ほとんどの学生は100グラムの粘土などの少量でも作陶を行なって発表評価を受けることを希望している。

表5 梶谷講師のメッセージ 陶芸の実習書「担当者から」より抜粋

「作業療法士として陶芸実習を指導でき、泥漿から硬質の磁器に変化する工程を理解するに従って創造的能力と、社会人として必要な持久力と待ちの感覚を体験することによって心理的な緩を読めるように作陶体験してほしい」

表6 基礎作業学実習I(陶芸)のスケジュール表(1995~2001年に実施した例)

陶芸実習と講義スケジュール	
日付(週)	グループ別に各技法を演習
4/17(月)	陶芸の基礎、基本技法について 1. ひも遣りによる円筒の制作 2. たたらによる板遣り制作、箱物に限定 3. ロクロによる小鉢、湯飲みの制作 4. 土の固りからピンチポット(土鍋) 5. 鑄込の体験
4/24(月)	4グループに分かれて上記の実習1, 2, 3, 4. を全員体験する
5/8(月)	↓ 講義(教科書, 教科書外のテキスト使用)
5/15(月)	↓ 下記の実習表にしたがって実施
5/22(月)	↓
6/5(月)	↓
6/12(月)	↓
6/19(月)	試験: 作品を所定の場所へ置く 講評・採点

  

作品造り予定表				
	A	B	C	D
4月24日	ひも遣り	たたら	ロクロ	ピンチポット
5月8日	ピンチポット	ひも遣り	たたら	ロクロ
5月15日	ロクロ	ピンチポット	ひも遣り	たたら
5月22日	たたら	ロクロ	ピンチポット	ひも遣り
6月5日	各自で補足の時間			
6月12日	スリップキャストイング(泥鑄込)		全員	
6月19日	スリップキャストイング(泥鑄込)		全員	

#### 4. 「陶芸」そのものの開講意義

「陶芸」について開講し学修機会を設けることに意味はあるのかということ。「陶芸」そのものの社会的な存在意義や医療への応用意義、教育的意義からこの章では探ってみたい。

##### 1) 臨床現場の「陶芸」活用状況

現在のリハビリテーション施設基準、開設にあたる基準にはさまざまな項目があるが精神科病院で設けられる精神科作業療法の施設基準でさえ、かつてはあった「ろくろ」などの設備例の記述が削除されている。(表8)実際に茨城県内のリハビリテーションを開設している施設のうち学生実習を依頼している施設に何うと陶芸を活動種目として常時行っているのは一般の病院ではなく、精神科病院で外来対象に1か所のみであった。地域の自立支援事業所等における陶芸を利用した活動・生産も茨城県では筆者の知る限り3か所のみである。手間や時間・技術を多く必要とする「陶芸」は行い難いということかもしれない。しかしながら、特別支援学校や支援学級による療育・美術教育の中での粘土素材を使った活動は行われていて、茨城県で障害者週間に合わせて毎年開催されるナイスハート美術展には学校、一

表7 基礎作業治療学（陶芸）の行動目標及びスケジュール・手順 例

平成24年度 陶芸実習タイムテーブル		実習	成型技法別演習		ABC3グループにわかれて制作			
	講義	共通	叩き挽き	板造り	紐造り	extruder 手びねり くりぬき	半磁器土 鑄込	釉薬 窯当番
			赤信楽土				半磁器土	
4月16日	・陶芸とは何か ・陶芸で何が出来るか	土練り 技法体験	(A)					
4月23日	土と成形装飾について	乾燥 装飾技法	A		C		B	C
5月7日	焼成温度・窯について	オープン陶土 実験 釉薬	A(B)		B		C	B B
5月14日	釉薬・化学反応成分	釉薬掛	B		C		A	A A
5月21日	陶芸芸術について		B(C)					C C
5月28日	陶芸と歴史文化		C					B
6月4日	ペーパーテスト (陶芸常識)	作陶	C					A
	自習6/11～							
	自習6/18～							
	自習6/25～							
	焼成提出 6月末							
前期期末試験 期間内に予定	提出作品について 発表採点 鑑賞							

毎回すること: 作品の所在確認 → 何をやるのか考える → 遂行 → 清掃 → (終了時記録)

陶芸の工程 :  
土作り → 成型 → 乾燥 → (加飾) 素焼まぢへ 素焼き → 釉薬かけ 本焼まぢかごへ 一本焼き → 仕上げ

学習方法 :  
やってみる  
お手本をみる  
人に聞く  
要領が分かたら工夫する  
失敗しても、またやってみる

人を真似る  
教科書で確認する  
**まぢがいや失敗のフォロー経験は「ハビリ」指導にも役立つ**

作業に関する準備・遂行・後始末で、社会性、計画性、要領、社会常識が必要となる。  
学生はこの機会に修練してほしい

評価について: ペーパーテスト(陶芸基礎知識)  
作品 (各成型技法3つ以上 器と皿と自由造形各1点以上 )  
その他平常点

作品について: 制作途中から完成まで 記名したり名札を入れたりして、実習室の所定の場所に置くこと  
制作途中から完成まで 毎回記録しておくこと (記録がないものは 所在不明のとき捜索しかねる)  
採点評価後は自分で作ったものを 実習室に残さず一度は 家にもちかえること

表8 作業療法診療報酬に関する施設基準

精神科作業療法に関する施設基準 (平成16年保医発 02270003) 抜粋

(2) 当該作業療法を行うために必要な専用の機械・器具を次の通り具備すること

作業名	器具等の基準 (例示)
手工芸	織機、編機、ミシン、ろくろ等
木工	作業台、塗装具、工具
印刷	印刷機具、タイプライター
日常生活動作	各種日常生活動作作用設備
農耕または園芸	農具又は園芸用具等

精神科作業療法に関する施設基準 (平成26年保医発 0305・2) 抜粋

(5) 当該療法を行うのに必要な専用の器械。機具を対象患者の状態と当該療法の目的に応じて具備する。

代表的な諸活動: 創作活動 (手工芸、絵画、音楽等)、日常生活活動 (調理等) 通信・コミュニケーション・表現活動 (パーソナルコンピュータ等によるものなど)、余暇活動・身体活動 (ゲーム、スポーツ、園芸、小児を対象とする場合は各種玩具等)、職業関連活動

般個人、施設団体から多くの出品がある。

## 2) 一般社会における「陶芸」の認識と活用

一般の社会での余暇活動について、統計資料を発行している公益財団法人日本生産性本部のレジヤ白書によれば「陶芸」を行っている人口は推定200万人ほどである。また、行いたいが行えない活動として上位10位内にあるのが「陶芸」である。特に2015年の統計では壮年層で創作的活動への関心が高く実際に行っているということがありその創作工芸の部門の上位に「陶芸」がある<sup>6)</sup>。

茨城県では窯業が盛んな地域があり、笠間市の県立陶芸美術館では毎年日本陶芸展の入賞作の展覧会が開催され、夏にはこどものための陶芸展の募集と展示会が行われている。笠間芸術の森公園で行われる陶炎祭（ひまつり）は200件以上の出店と毎年50万人前後の来場者がある有名行事となっている。陶芸は文化的な歴史背景をもつ活動であり茨城県では平成28年には陶芸大学校も開設され、モノづくりへの関心と伝承技術の保存への期待が高い作業活動である。

## 3) 民俗学や教育文化論の視点

作業療法の文化的技術としての「わざ言語」<sup>7)</sup>としてもものとの対話・学習模倣による伝承は、データを収集し解析し推論するという統計学的手法とは異なるものである。そのような意味合いで「陶芸」は作陶過程の体験と作品の扱いを通して、「作業」を通しての人間行動変化の可能性にふれられるという特徴がある。これは学習認知過程でいうところのメタ認知と称される思考過程を要する。また、人との関わりは文化人類学の中でも研究されているテーマでもある<sup>8)</sup>。

## 4) 「陶芸」の治療・援助の可能性

ものと人を通しての成長対話の概念は精神科臨床の中で作業療法の治療構造<sup>9)</sup>として山根が提唱している。単なる工学的なものづくりの側面ではなく、そのような概念の理解を「陶芸」の体験からは得やすい。

粘土は童心に戻り、感性的な側面に働きかけ言語で表現しきれないものを表出するという可能性と評価について、粘土そのものの感性的な側面にも着目し感覚入力と情報処理統合過程という視点で、再び治療の手段としてとらえなおして用いられてもよい活動ではないかと考える。

一般社会での「陶芸」は、やってみたい文化として価値が高く関心も高いことはすでに述べた。これらの文化としての「陶芸」がもたらす、質の高い社会生活への帰属感は臨床現場で重要視してもよいかもしれないと考える。

また、通常では問題や失敗とみられるようなものごとをどのようにリカバリーするのかという知恵や技術を「陶芸」はもっており、その知恵のようなものは障害を持った人のリハビリテーションや生活のリカバリーに通じるものがある。

## 5) 医療職業人としての教育倫理の視点

陶芸活動の授業（演習）が医療職業人である作業療法士としての側面にどのような役割を担っているのか、担うべきなのかについてもここで触れたい。

「陶芸」が作業療法士教育に寄与する点としては梶谷講師が開講時に寄せた学生への方針メッセージ（表5）にある「社会人として必要な持久力と待ちの感覚」は重要と考える。これは物事への遂行への自己効力感をもった見通しと時間と技術の自己統制、多忙な多様な業務・課題の遂行と重なっていくものである。

M.フーコーはその思想の変遷の中で、ギリシャ時代の人のあり方から、欲望から自己を制御する過程を通して人間はその存在を完成させていくという人間のありかたを見出だしている。また、人に行為を行わせるということに言及し、「作業」の支配の側面にふれている<sup>10)</sup>。作業をする、適正な作業をしていただくという面に、他人への権力を用いた支配ではなく行為としての支配があるということである。これは医療職業人として作業療法士が最も気をつけなければいけない側面で、対象者に利益をもたらさない行為をさせること（使役行為）の禁止として作業療法士で重要視される倫理事項である。その視点に初学者である作業療法学生が気付くためには、合目的的に計画された活動に参加して得られた達成感や満足感、自己効力感とその制御を学ぶ体験だけではなく、偶然性や条件の重なり合いが意外な結果となる過程に協業として対処する経験が必要となる。つまり、失敗や意外性もふくめた結果が自分の制御を超えて出現するような体験とその結果をリカバリーしたりされたりして自分の認識や価値観を検討するという謙虚な体験が必要で、「陶芸」はその最適な機会となりうるであろう。



## 6) 学生の人としての成長に貢献する点

「陶芸」では、それまでの小中高の芸術美術教育の一コマと同様の参加態度を示し、参加して作ればよいということで時を過ごす学生や作業療法士を志望してはいるが、それほど特別に手工芸の作業能力が高いわけではないという学生はいる。学生は青年期の入り口で、自己尊重への関心の強さもありながら、一方で他者からの評価に対する不安を抱えている<sup>11)</sup>。「陶芸」では学生自身の取り組み方への働きかけ、作業習慣への示唆、感性を高める工夫が大事であろう。作業療法を学ぶ中では、作業と対象者とのかわり、課題遂行と評価、学生同士の交友関係を通して多くの学生は心理的に成長し変わっていく。「陶芸」は、作品制作と相互評価・交流で自他の価値観や行動の違いが表れやすく、成長する機会のひとつとなっている。(図3)

## 5. 基礎作業教育における「陶芸」の今後

茨城県立医療大学の基礎作業に関する環境は大変素晴らしいものであった。古田らは作業療法教育を再考する中で養成校の教育環境の格差を指摘し、ネット環境・図書・ビデオ教材が充実した養成校とそうでない養成校では情報力に大きな差が出てくる可能性にふれている<sup>12)</sup>。そのような充実した環境で学修し、応用として現場の多様な条件と制約があっても成果を上げることができる力を身につけることがクライアントの支持を得て社会的な支持も得られていくであろう。

ところで、茨城県立医療大学の故工藤学長はチーム医療と連携について「knot work」の概念を提唱し、知の「knot work」の展開を期待されていた<sup>13)</sup>。また、レジャー白書2015の分析によると民間の資源によるレジャーの増加とその実施参加は受け身から能動、指導へという展開が生じるとのことである<sup>14)</sup>。地域や民間の資源を利用していくことで学内からも地域に貢献して行う地域との緩やかな結びつき「knot work」を形成することもよいのではないかと考える。実際に「陶芸」を活動に残している病院・施設は自らが窯をもち作業療法士が中心になって指導するのではなく、自治体の資源や陶芸愛好者や陶芸家のボランティアの参加が加わり運営が



図3 陶芸作品発表会 開催の様子  
制作した作品を工夫して展示し、お互いに評する経験をする。

なされている。学生教育では、作業技術の学修について受け身の参加から能動的参加、他の人への指導という方向で、学生当事者や障害者を含む地域住民へ見えやすい形にして展開していくことも大事なことなのではないだろうか。そのなかで「陶芸」は知性の涵養の一つの体験や専門的な分析の経験を重視して教育内容を工夫していくことがこれからは必要である。地域社会の人材や資源との連携、情報の活用の仕方を学生とともに模索し充実するという時機に来ているのではないかと考えている。

## 謝辞

長年にわたり、陶芸技術のみならず様々な面でご教示いただいた梶谷胖講師、運営補助をしてくださった助教・嘱託助手、履修し様々な可能性をみせてくれた学生に感謝の意を表したい。

## 文献

- 1) 茨城県立医療大学開学10周年記念事業実行委員会.Ⅷ沿革及び10年の歩み開学の経緯.茨城県立医療大学開学10周年記念誌(茨城県立医療大学).2005,84-93.
- 2) 鷺田孝保.茨城県立医療大学開学10周年を祝して.茨城県立医療大学開学10周年記念誌(茨城県立医療大学).2005,29.
- 3) 岩永雅也,星薫編著.教育と心理の巨人たち.放

- 送大学振興会 .2010,106.
- 4) 社団法人日本作業療法士協会編著. 作業療法学全書第2巻基礎作業学. 協同医書出版 .1990.
- 5) 社団法人日本作業療法士協会監修, 澤田雄二編. 作業療法学全書第2巻基礎作業学. 協同医書出版 .2009.
- 6) 公益財団法人日本生産性本部余暇創研. レジャー白書 2016. 公益財団法人日本生産性本部 .2016,28.
- 7) 鈴木晶子. 教育文化論特論第11章生存と伝承. 放送大学振興会 .2011,157-170.
- 8) 内堀基光, 奥野克己編著. 改訂新版文化人類学. 放送大学振興会 .2014,129-141.
- 9) 山根寛. 精神障害と作業療法第2版. 三輪書店 .2003,56.
- 10) 戸島貴代志, 本郷均編著. 現代フランス哲学に学ぶ. 放送大学教育振興会 . 2017.
- 11) 塩原直美, 水野高昌, 岩井和子. 学生の作業遂行の特徴-箱づくり法作業面接の演習を通して-. 日本作業療法学会第50回抄録(札幌).2016.
- 12) 古田常人, 徳江与志子, 西方浩一. 作業療法の再考-文献による内容分析から-. 文京学院大学保健医療学部紀要 .2011,(4)35-50.
- 13) 工藤典雄. 茨城県立医療大学紀要第19巻の刊行にあたって. 茨城県立医療大学紀要第19巻 .2014.
- 14) 公益財団法人日本生産性本部余暇創研. レジャー白書 2016. 公益社団法人日本生産性本部 . 2016,87.

Transition and Future of Pottery Art Practical Training in Occupational Therapy Educational Curriculum

Naomi Shiobara

Ibaraki Prefectural University of Health Sciences